

勝連城跡

は、勝連半島にある標高約98mの小高い丘に築かれた東西に細長いグスクで、五つの曲輪からなり、各曲輪の城壁は琉球石灰岩の切石を使って曲線状に築かれています。丘陵西側の最も高い曲輪が一の曲輪で、その東側に二の曲輪、三の曲輪、四の曲輪と階段状に低くなり、東の曲輪は再び高くなっています。

出土遺物は豊富で、中国産の陶磁器が多量に出土しているほか、東南アジア産の陶磁器類、朝鮮の磁器、大和系の瓦が出土しており、日本や中国、東南アジアと貿易をしていたことが発掘調査によって明らかにされています。これらの出土品から、13世紀前後に築城されたと考えられています。

琉球最古の歌謡集である「おもろさうし」には、勝連を日本本土の鎌倉にたとえた歌謡をはじめ、繁栄していた様子を示す歌謡が数多く残されています。

丘陵上に築かれたグスクは、北は金武湾を囲む北部の山々やうるま市の島しょ地域の島々が見え、南は知念半島や中城湾、世界遺産の中城城跡が一望できる景勝地となっています。

勝連城跡は、昭和47年(1972年)に国指定史跡に指定され、平成12年(2000年)に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして、首里城跡などとともにユネスコの世界遺産に登録されました。昭和52年度(1977年度)から保存整備事業により城郭内の整備が行われ、現在も城壁の石積み等の整備が進められています。

勝連グスクの立地と構造

グスクは、四方に眺望のきく比較的傾斜の急な孤立丘を取り込んで築かれており、外敵をいち早く確認できることや、南側に良港を控えていることなど、極めて良好な立地条件を備えています。グスクは五つの曲輪からなり、各曲輪は琉球石灰岩の切石を使って曲線状に築かれています。

このようなグスクには、政治の安定を願い、按司の威厳を維持する守り神として、「コバツカサ神」「火の神」を祀った拝所があります。「コバツカサ神」は、一の曲輪の中央部にある円柱状に加工された岩(玉ノミウヂ御嶽)に祀られており、現在でも多くの人々が参拝に訪れます。三の曲輪には「イシツカサ神」、通称「肝高の御嶽」があり、その横にはノロ(神女)が城拝みに来たときに休息する座石(トゥヌムトゥ)があります。



中国産陶磁器

銭貨



二の曲輪

二の曲輪には東西14.5m南北17m規模の殿舎跡があり、覆土によって遺構を保存しています。西側には、抜け道の伝説がある「ウシヌジガマ」と呼ばれる洞穴があります。

一の曲輪

一の曲輪は最高所に位置し、瓦葺きの建物やアーチ式の門があったと考えられています。

三の曲輪

三の曲輪は、儀式などを行う広場と考えられています。また、二の曲輪と三の曲輪は、一つの曲輪だと考えられています。

三の曲輪城門

四の曲輪から細く長い石畳道が上がり詰めた部分に内郭の門がありました。この門は、礎石の存在から4本柱の薬医門であったと想定されています。

四の曲輪の井戸

勝連グスクの中で最も低い位置にある四の曲輪には、5つの井戸があります。一の曲輪や東の曲輪に降った雨水が、地下を通して四の曲輪に集まってくる地形を活かして井戸が作られています。戦時においても水は大変貴重であり、この水が勝連グスクの発展を支えました。

東の曲輪

四の曲輪の南東側の一段高くなった箇所は、東の曲輪と呼ばれ、城壁が巡り、四の曲輪の水場を確保する上で軍事的に重要な箇所でした。

東側の外堀

東の曲輪城壁外には、外部からの侵入を防ぐための外堀が掘られています。東側は丘陵が続いているため、外堀を造ることで侵入を阻みました。堀は薬研堀という掘り方で、最も深い箇所は地表から約3m下がっています。

南風原御門

四の曲輪

四の曲輪には、南西側に南風原御門、北東側に西原御門と呼ばれるアーチ式の門があったと伝えられ、さらに5つの井戸があり、建物跡を推測させる礎石が発掘調査で見つかりました。

西原御門

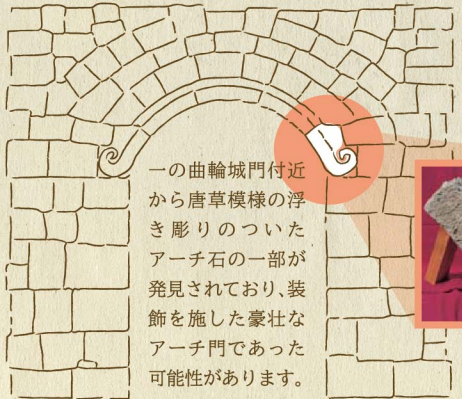
城壁のつくり

沖縄のグスクの石積みは、大きく分けて三種類の積み方があります。自然石をだまかに加工して積んだ「野面積(のづらづみ)」、四角い切石を水平に積み上げた「布積(ぬのづみ)」、多角形の石を亀甲型に積んだ「相方積(あいかたづみ)」があり、野面積→布積→相方積と発達したと考えられています。勝連グスクの石積みは、そのほとんどが布積で積みまれています。また、鈎(かぎ)状に組むことで、強度を増した工夫も見られます。

勝連グスクの布積



保全のため城壁には登らないようお願いいたします



一の曲輪城門付近から唐草模様の浮き彫りのついたアーチ石の一部が発見されており、装飾を施した豪壮なアーチ門であった可能性があります。



沖縄の信仰を知ろう

沖縄には様々な神が存在します。村を守る神、台所を守る神、沖縄を作った神話上の神、沖縄人を見守る先祖の神。勝連グスクは、これらの神が祀られている場所である「御嶽(うたき)」が多く存在する神聖な場所です。御嶽では神人(カミンチュ)と呼ばれる神役が、公的な宗教儀礼を執り行っていました。

- ### 1 玉ノミウヂ御嶽

按司(地方の権力者)の守神を祀った拝所で、大きな岩は勝連を守る霊石。「かつてはウシヌジガマとつながっていた」という伝説も残っています。
- ### 2 ウシヌジガマ

ガマとは洞穴のこと。天災や戦のとき、ここに身を潜めて難を逃れたといわれています。
- ### 3 ウミチムン(火の神)

ここには「火の神(ヒヌカン)」が祀られています。「火の神(ヒヌカン)」とは台所に置かれる家の神のこと。沖縄では今でも主婦が家族への加護を願い、台所で火の神を祀っています。
- ### 4 トウヌムトゥ

旧暦2月と5月に行われるウマチー(収穫祭)の際、神人(カミンチュ)が腰掛けていた座石。
- ### 5 ミートウガー(夫婦ガー)

縁結びの井戸。ここで恋が成就すれば永遠の契りに。だが、失恋すると男女のどちらかが命を落とすとか…。
- ### 6 ウタミシガー

旧正月の元旦に水量を見て、その年の作物の出来を占っていた井戸だといわれています。(水が少なければ豊作、水が多ければ凶作)